

# 花巻市 博物館だより

HANAMAKI  
CITY MUSEUM



No. 71

2023.12



花巻市博物館IP



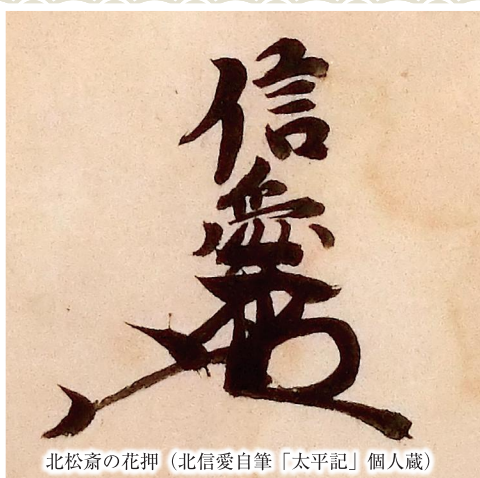
Facebook



Instagram開設!

目次

- ▶P1テーマ展「北松齋と南部政直」▶P2-3テーマ展「花博コレクション展」ミニ展示「斎藤宗次郎」
- ▶P4-5テーマ展「北松齋と南部政直」▶P6活動レポート▶P7館長コラム・行事案内・インフォメーション
- ▶P8花博コレクション



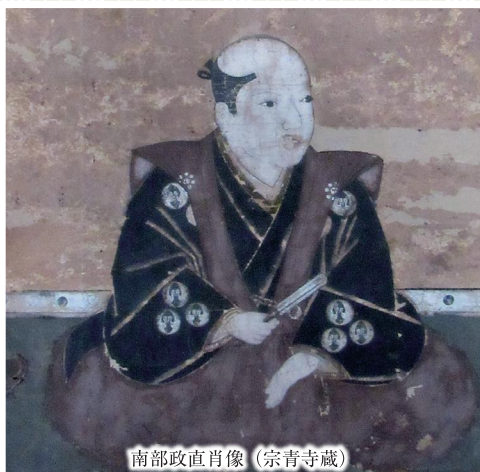
北松齋の花押（北信愛自筆「太平記」個人蔵）



北松齋の肖像  
（「南部利直・北信愛対面之図」もりおか歴史文化館蔵）

## 北松齋と南部政直 — その足跡をたどる —

江戸時代の花巻の町を作るのに大きな功績を残したのが、<sup>きたしょうさい</sup>北松齋と<sup>なんぶまさなお</sup>南部政直の二人でした。慶長5年（1600）に稗貫・和賀氏の旧臣による一揆にさらされた<sup>のぶちか</sup>信愛（のちの松齋）は、本格的な城作り、町作りを計画しました。事業半ばで死去した信愛の後を引き継いで、完成させたのが南部政直です。今回の展示では、生誕500年を迎えた松齋、400回忌法要の年にあたる政直の足跡についてたどりたいたいと思います。



南部政直肖像（宗青寺蔵）



南部政直黒印（「南部政直黒印状」個人蔵）

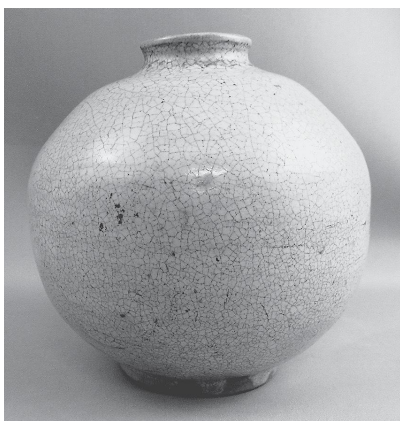
令和5年度テーマ展

# 花博コレクション展

◀ 期間：令和6年3月23日(土)～5月6日(月・振) ▶

花巻市博物館には考古・歴史・美術などの資料がたくさん収蔵されています。  
花博コレクション展では当館が誇るコレクションから、学芸員が厳選した魅力あふれる資料を紹介します。

## かいゆうたんけいへい 灰釉短頸瓶



鍛冶町焼の短頸瓶です。

頸が短く丸い満月のような可愛らしいフォルムが印象的です。

両手にすっぽり収まるほどの小さなサイズで、用途はおそらく

一輪挿しと思われれます。

鍛冶町焼は花巻の伝統的な焼物で、盛岡藩のお抱え鋳物師である古館伊織ふるだていおりが花巻の鍛冶町にて窯を開きました。当時は粘土を台温泉のすぐそばの万寿山などから採集していたようです。

花巻の風土も作品から感じ取れそうです。

## 農村風景図

はくうん

小笠原白雲(1875～1944)の作品で、農村の風景が優しいタッチの淡彩で描かれています。

アニメなどで昔の道具は



こんなものがあると知っていても、その道具がどのように使われていたのか、どんな暮らしをしていたのか、資料として絵で見るということは稀ではないでしょうか？

この資料は6点あり、それぞれ農作業の様子、自然と人の関わりを伝えてくれます。

## こけし

こけしと言えば旅行土産としてなじみ深い方も多いのではないのでしょうか。

このこけしは「南部系」という種類に分類されます。

南部系の特徴は「キナキナ」と呼ばれる赤ん坊のおしゃぶりを起源とし、無彩色・動きやすい頭、握りやすい形が特徴とされています。

このこけしには雪山と、楽しそうに遊ぶ2人の子供、側面には「雨ニモ負ケズ」の詩も書かれ、雪国の自然を前面に押し出したデザインになっています。

一般的なお土産品で見かけるこけしに比べ、大きなサイズで存在感も抜群です。



## 山の神



花巻人形の山の神です。

山の神は日本各地にある山岳信仰の山の神、そして民間では田んぼの神であるともされています。

この山の神は女性の姿で、右手にナタらしき刃物、左手には桑の葉らしきものを

持っています。

着ている衣装は白を基調として内側に赤、紫を使用されています。胸と足元には花巻人形に描かれることが多い花の一つ、梅の花が描かれています。

花巻は早池峰山、胡四王山、権現堂山、観音山など宮沢賢治が「経埋ムベキ山」として書き留めた山が多い地域です。

自然信仰、民間信仰、仏教の関係など、複雑な要素が絡み合い、このような山の神像のイメージが出来ていったのかも知れません。

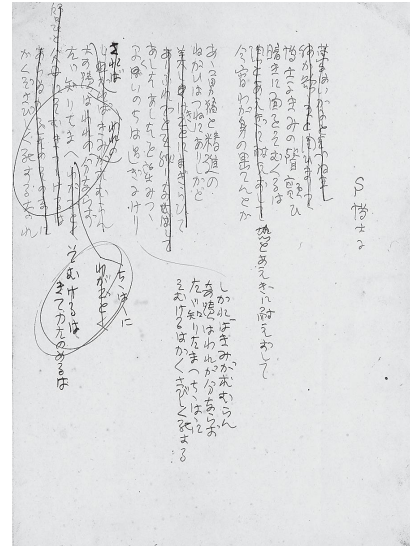
## S博士に

宮沢賢治が病床で書いた詩の一つです。賢治が亡くなった後に実弟の宮沢清六により、賢治の主治医であった花巻共立病院の設立者・委員長の佐藤隆房へあてたものとされ、佐藤氏へ贈られた資料です。

令和2年に当館で総合花巻病院の資料を受け入れ、その膨大な資料の中からこの「S博士に」の草稿が見つかりました。

その後、同時に書かれた草稿との化学分析が行われ、賢治の直筆の資料であることも確認されました。

今回の花博コレクション展では、この「S博士に」の草稿を初公開いたします。



(学芸調査員 佐藤 絵美)

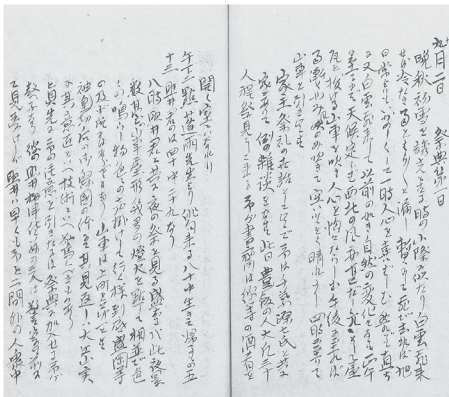
### ◆花博コレクション展と同時開催

## ミニ展示 「斎藤宗次郎」

明治10年(1877)に北笹間に生まれた斎藤宗次郎は、明治・大正期の花巻に暮らしながら、自らの日々の心胸や日常の様々な出来事などを日記に残しました。宗次郎は大正15年(1926)8月に東京へ転居しますが、それ以後も91歳で亡くなる直前まで日記を書き続けています。

このミニ展示では、当館が所蔵する宗次郎関連資料の中から日記を中心とした資料を厳選してご紹介します。

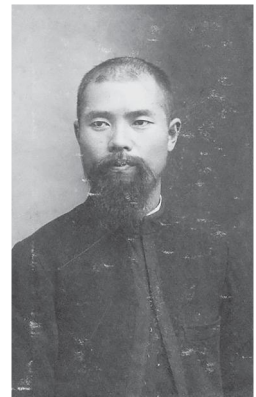
(学芸員 小田島智恵)



宗次郎の日記「吾家の歴史」



苺畑の宗次郎と内村鑑三



師範学校の制服を着た宗次郎

令和5年度花巻市博物館テーマ展

# 北松齋と南部政直

## —その足跡をたどる—

令和6年1月20日(土) - 3月3日(日)

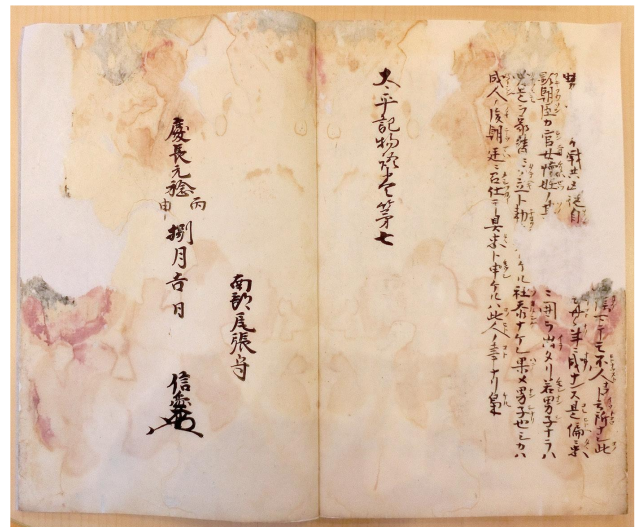
### はじめに

北松齋は、慶長3年(1598)から慶長18年(1613)までの16年間、花巻城代をつとめ、城の大改修、城下町の形成に尽力しました。

松齋の後を受け継いだ南部政直は、慶長18年から寛永元年(1624)までの12年間、花巻城主として、城の改修整備を成し遂げました。

今年は、松齋の生誕500年、政直の400回忌法要(没後399年)の年にあたります。

本展では、二人の足跡について当館所蔵の関係資料や市内の寺院に残されている品々から紹介します。



北信愛自筆「太平記」(個人蔵)

### 花巻城代 北松齋

信愛(後の松齋)は1523年、剣吉(現、青森県三戸郡南部町)に生まれ、通称を吉丸(幼名)、剣吉彦太郎と称しました。後年、官名を得て、左衛門佐、尾張守と改め、晩年には松齋と号しました。信愛の父は、三戸南部氏21代当主信義の子で、剣吉城主の致愛(通称・左衛門尉)です。信愛は永禄年間(1558～1570)に家督を相続し、剣吉城主となり、剣吉殿と呼ばれたと伝えられています。

花巻城最初の城代は、南部氏の重臣であった北秀愛でしたが、若くして病死したため、父の信愛が秀愛の知行8000石をそのまま譲り受け、慶長3年(1598)、花巻城代となりました。

北信愛が城代に就任してから、本丸・二の丸・三の丸、堀と土塁、御門、本丸御殿と御役屋等の縄張り(配置計画)を行い、慶長14年頃から本格的に普請を開始したとされています。

花巻城下は「花巻三町」と総称され、文禄年間(1593～1596年)に四日町が、慶長年間に川口町と一日市町が相次いで開かれましたが、この開町にも信愛の尽力が大きかったようです。

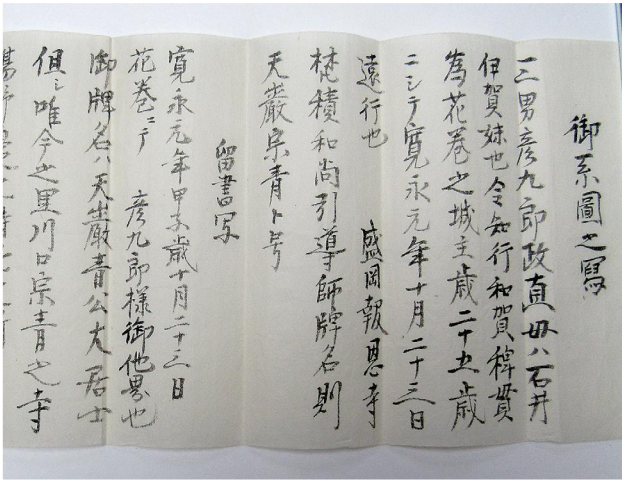
慶長18年(1613)8月17日、松齋は花巻で91歳の生涯を閉じます。遺体は四男愛邦の菩提を弔うため創建した雄山寺(花巻市愛宕町)に埋葬されました。戒名は「節叟忠公居士」で、信直・利直二代に仕えた忠臣を偲ばせるものです。死去する前年の6月には回顧録「北松齋手控」をまとめ、南部信直の家督や金沢の前田利家を通じた豊臣政権への働きかけなどを振り返っています。



北松齋の墓地(雄山寺)

## 花巻城主 南部政直

政直は、慶長4年(1599)、盛岡藩二代藩主南部利直の次男として福岡城(現、二戸市)に生まれました。政直は幼名を父親の利直と同じ彦九郎と名乗り、元和6年(1620)年頃、元服すると、政直と名乗ります。



「御系図之写」(宗青寺蔵)

花巻城二代目城代、北信愛(松斎)の亡き後、慶長18年(1613)10月に、父の利直の命により和賀・稗貫二郡を与えられ、花巻城主として赴任しました。それから死去する寛永元年(1624)までの11年間、付家老の石井善太夫と北湯口主膳の補佐のもとに統治を進めました。

政直の事績として挙げられるのは、「本丸御殿の整備」「城下の町割り」「寺社の整備」「北松斎が手がけていた御堀と土塁の工事の完成」です。また、鳥谷崎神社(花巻市城内)の通用門となっている円城寺門は、政直が在職中の慶長19年(1614)に、二子城(現、北上市二子町)の大手門(表門)を移築したものとされています。



現在の円城寺門

寛永元年(1624)12月、花巻城において政直は急逝します。各史料では柏山明助も同時に死んだと書かれており、病死とされているものがほとんどです。しかし、「杜陵古事記」によれば南部家では、柏山明助が伊達政宗と内通しているのではないかと疑いを持っており、花巻城にて明助の毒殺を画策したというのです。政直はこの際に毒見役を引き受け死亡したといわれています。政直の死に心を痛めた利直は、政直没後の翌年(1625)に宗青寺(花巻市御田屋町)を建立し、その菩提を弔います。



「白磁徳利」(宗青寺蔵)



「政直の位牌」(宗青寺蔵)

(市史編さん室 因幡敬宏)

### ◆関連イベント

#### ・ギャラリートーク

日 時：令和6年1月27日(土)

13時30分～14時

※申込不要ですが、入館料が必要です。

## 活動レポート

# 展覧会関連イベント

花巻市博物館では、開催する様々な展覧会に関連した講座やワークショップを行っています。テーマ展「花巻市博物館所蔵 刀剣コレクション展」と特別展「日本中の子どもたちを笑顔にした絵本作家 かがくいひろしの世界展」から、その様子をご紹介します。

### ◆テーマ展

## 「花巻市博物館所蔵 刀剣コレクション展」関連イベント

### ・刀剣研磨実演とスペシャルギャラリートーク

本展にご協力いただいた研師の菊池真修<sup>とぎし</sup>氏を講師に迎え、前半は研ぎの実演、後半は企画展示室でのギャラリートークを行っていただきました。参加者は刀を持ったり、研ぎを体験したりと楽しそうな様子でした。ギャラリートークでは、展示資料について詳しく解説いただき、より深く展示内容を理解することができました。



### ・ペーパーナイフ作り

刀匠の辻和宏氏を講師に迎え、釘を使用してのペーパーナイフ作りを行いました。釘を金槌で叩き、金やすりで整えるなど、細かい作業がたくさんありましたが、参加された方々は自分だけのペーパーナイフを製作することができたようです。この日は刀身彫刻の実演もあり、充実したワークショップとなりました。

### ◆特別展

## 「日本中の子どもたちを笑顔にした絵本作家 かがくいひろしの世界展」関連イベント



### ・絵本の読み聞かせ会

図書ボランティアサークルちえの輪さんをお招きし、絵本の読み聞かせ会を行いました。かがくいひろしの「だるまさん」シリーズの大型絵本などを中心に、ダルマをモチーフにした絵本や、歌を交えての絵本などの読み聞かせをしていただきました。参加した子どもたちは、絵本の内容に合わせて身体を動かしたり、声をあげて笑ったりと、絵本を楽しんでいる様子でした。

展示の鑑賞だけでなく実際に体験したり、詳しい解説などを聞いたりすると、展覧会をより楽しむことができます。今後も様々な講座やワークショップなどを開催予定ですので、ぜひご参加ください！

館長  
コラム座敷わらしの棲む？  
熊谷家

花巻市博物館前を通る国道456号線を北に1kmぐらい行くと、大きな茅葺屋根や土蔵が見えてくる。この建物は、1989年（平成元）に市指定有形文化財となった熊谷家の母屋と附属棟である。熊谷家は、江戸時代から製酢業を営み、幕末の数百年は矢沢村の肝煎を務めた旧家で、母屋の造りは盛岡藩に特有の「南部曲屋」ではなく「直屋（すごや）」となっているが、家屋内に厩（うまや）があるのは南部地方の家屋構造の流れを受け継いでいる。

熊谷家は、幕末には盛岡藩主席家老・楡山佐渡（ならやま・さど）の家士でもあり、母屋に附属している書院屋敷は、楡山が訪れたときに使用したと言われている。家老としての楡山は、貧窮していた藩財政の立て直しを始め、数々の制度改革を行ったが、奥羽越列藩同盟に参加を決め、同盟を脱退した秋田藩を攻めるなど、東北地方では強力な佐幕派の推進役でもあった。しかし、1868年（慶応4）官軍の援助を受けた秋田藩に敗れ（秋田戦争）、敗戦の責任を負って1869年（明治2）に斬首刑に処された。

熊谷家は、東北新幹線新花巻駅からよく見えるため、駅を降りた人が興味を持って訪れることもある。その中の一人に作家の萩原浩さんがいた。萩原さんの人気小説「愛しの座敷わらし」は、2008年上半期の直木賞候補にあがった作品で、2012年には水谷豊さんと安田成美さんらが出演して映画化された。萩原さんは、花巻市文化会館で行われたロケ地の凱旋上映会のあいさつで、「新花巻駅から見た熊谷家に興味を持って訪れ、その佇まいからなどから作品のヒントを得た」と語っている。実際に、熊谷家に置かれている記帳ノートにも萩原さんの名が残されている。

最近では、熊谷家を活用して地元神楽団体が主体となった「古民家で味わう神楽鑑賞会」が行われている。この鑑賞会は、古民家が持つ独特の雰囲気と神楽という民俗芸能がマッチして、毎年多くの人が鑑賞に訪れている。コロナ禍で開催できない年もあったが、2022年には晴れて地元の胡四王神楽、幸田神楽などが中心となって再開し喝采を浴びた。

熊谷家は、地域の人たちの協力により年中開放されており、興味のある方は是非訪れて、座敷わらしを探してみたいかがであろうか。

## 令和5年12月～令和6年3月の行事予定

## 【企画展示室】

- 特別展「日本中の子どもたちを笑顔にした  
絵本作家かがくいひろしの世界展」  
会期：～12月24日（日）〈会期中無休〉
- テーマ展「北松斎と南部政直」  
会期：1月20日（土）～3月3日（日）
- テーマ展「花博コレクション」  
ミニ展示「斎藤宗次郎」  
会期：3月23日（土）～5月6日（月・振）

## 【ワークショップ】

- ◆花巻人形絵付け体験  
日時：3月24日（日）13：30～15：00  
定員：20名 ※要申込  
費用：1,600円～  
（人形によって費用が変わります）  
会場：花巻市博物館 講座体験学習室  
※2月24日（土）より受付を開始します。

## 【講座】

- ◆館長講座-3『『土偶王国いわて』の不思議』  
日時：2月18日（日）13：30～15：00  
定員：30名 ※要申込  
費用：無料  
会場：花巻市博物館 講座体験学習室  
※1月18日（木）より受付を開始します。
- ◆学芸員講座③「北松斎と南部政直の事績」  
日時：2月25日（日）13：30～15：00  
定員：30名 ※要申込  
費用：無料  
会場：花巻市博物館 講座体験学習室  
※1月25日（木）より受付を開始します。

## 花巻市博物館

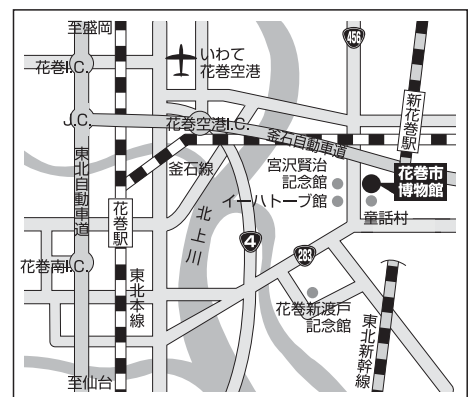
〒025-0014 岩手県花巻市高松第26地割8番地1  
電話：0198-32-1030 FAX：0198-32-1050  
開館時間：午前8時30分から午後4時30分まで  
休館日：12月28日から1月1日まで

入館料	小学生・中学生	150(100)円
	高校生・学生	250(200)円
	一般	350(300)円

※（ ）内は20名以上の団体割引料金です。  
※割安な近隣4館共通券もあります。  
※特別展示を行う場合、別に入館料を定める場合があります。

## 交通案内

- ◆バス  
新花巻駅→賢治記念館口  
岩手県交通 土沢線 イト  
ヨーカドー行…約5分  
花巻駅→賢治記念館口  
岩手県交通 土沢線 土沢  
駅行…約20分
- ◆車  
花巻空港ICより…約10分
- ◆徒歩  
新花巻駅より…約25分

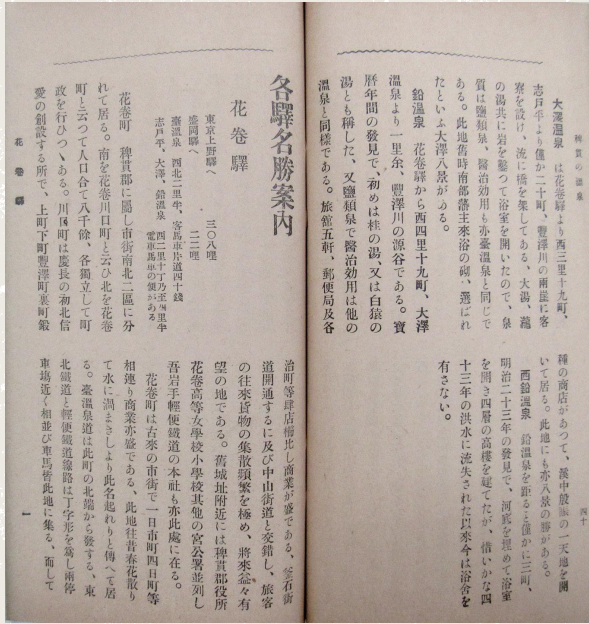


URL: <https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/bunka/1008981/index.html>

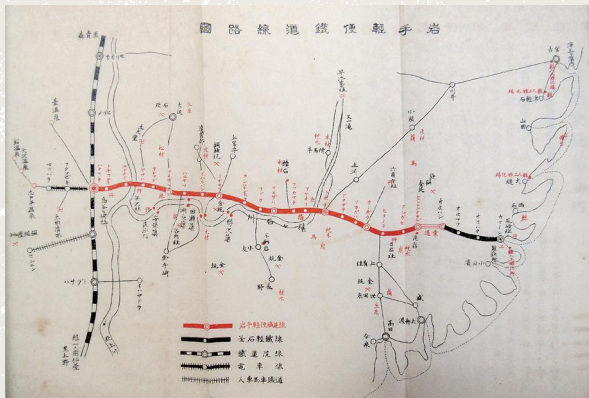
HANAHAKU

# 花博コレクション

COLLECTION



18.2×10.4cm



## 岩手軽便鉄道案内

岩手軽便鉄道が花巻から仙人峠までの全線が開通したことを祝して大正4年(1915)11月に発行された記念冊子です。この冊子の冒頭には岩手軽便鉄道会社の沿革が書かれており、そのあと沿線の地勢や地方産業の情勢、各驛名勝案内と続きます。花巻駅は各驛名勝案内の最初に紹介されており、市街が北の花巻町と南の花巻川口町で形成されていること、人口は合わせて8,000人あまりであること、花巻川口町は城跡に官公署が置かれる将来有望な地、花巻町は古くからの市街で商業が盛んであり東北本線軽便鉄道の停車場や西の温泉地へと向かう電車も通ることから交通の便のよさはこの地方稀に見るところと書かれています。他にも鳥谷ヶ崎神社や清水寺が名勝地として取り上げられています。

この冊子以外にも、岩手軽便鉄道全通を記念して絵葉書や時刻表などが配布されました。

(学芸員 小田島智恵)